

知って納得！がん治療

主催／静岡新聞社・静岡放送 特別協賛／スルガ銀行

共催／静岡県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館

県立静岡がんセンター公開講座「知って納得！がん治療」(静岡新聞社・静岡放送主催、県立静岡がんセンター、三島市、長泉町、裾野市、函南町、清水町、三島市民文化会館共催、スルガ銀行特別協賛)の第1回がこのほど、三島市民文化会館で開かれました。開講式に続き、山口建総長、宮木裕司検診センター医長、秋山靖人免疫治療研究部長による講演が行われました。その概要を紹介します。

(企画・制作／静岡新聞社営業局)



県立静岡がんセンター 総長

けん 山口 建氏
やまぐち けん
1974年慶大医学部卒。99年国立がんセンター研究所副所長、同年宮内庁御用掛(併任)。2002年から現職。00年高松宮妃癌研究基金学術賞、14年アボット賞受賞。研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、がんの社会学。

がんは身近な病気

我が国では二人に一人が一生のどこかでがんと診断されます。がんの6割は完治可能で、たとえ完治できなかつたとしても長期間、がんと共に生活し、普通の暮らしを送ることができるようになりました。現在、日本の人口、約1億2000万人のうち約500万人はがんを体験した患者さんたちです。

最善のがん治療を受けるには

放射線などが含まれます。がんを防ぎ、がんで命を落とさないためには、予防、がん検診、体調管理が大切です。予防の第一歩は、可能な限り、発がん因子を避けることです。そのため、守っていただきたい生活

がんを防ぐ努力

清浄度もがん予防に役立ちます。生活習慣以外では、ピロリ菌やC型肝炎ウイルスも薬剤で除去することが出来るようになりました。人々にとって、がんの遺伝も心配です。「自分はがん家系の一員だ」と信じている人も多いでしょう。しかし、多くの場合、それは誤りです。今、日本では二人に一人ががんにかかるため、両親、兄

がん検診ー症状のない時にこそ受けるものー

がんは誰もがなり得る

厚生労働省の統計では、全国のがんの年間死亡者数は、男性の胃がんがおよそ3万2000人、肺がんは5万2000人、女性は乳がんが1万3000人、大腸がんが2万1800人で、年々増えています。生涯のうち二人に一人ががんにかかるといわれています。そこで、がんによる死亡を減らすためにがん検診が推奨されています。

検診結果が異常と出たら

厚生労働省の検診の指針は今年一部変更がありました。胃がんの検診はエックス線検査か内視鏡検査のどちらかを選ぶことも場合によつてはできるようになりました。また、たくさん長年喫煙して「1日の喫煙本数×喫煙年数」が600以上だと、肺がんになる危険性が高まります。大腸がんは便の潜血検査ですが、見ても分からないような微量の出血でも診断で

検診結果が異常と出たとしても、本当にがんであるという割合は数%程度です。勇気を出してすぐに医療機関で受診してください。がんの自覚症状には、便に血が付く、ほくろが急に大きくなる、不調が治りにくいなどがあります。咳が続く、胃のあたりや便通がおかしい、排尿・排便時の出血やどろっとしたものの付着、男性なら排尿時に違和感がないか気を付けてください。その場合はがん検診を待たず早めに医療機関で受診してください。



県立静岡がんセンター 検診センター 医長

みやぎ ゆうじ
宮木 裕司 氏
1991年、医師免許取得。岡山大学医学部附属病院、広島市民病院、高知県立中央病院などで、産婦人科臨床医として一般的に産科、婦人科医療を行う。2005年から現職。産婦人科専門医。医学博士。

習慣があります。まず、禁煙は最も大切です。お酒は控えめに、1日に日本酒なら1合、ビールは中瓶1本以下にしましょう。食事は、塩分や脂肪分を控えめにした和食がお勧めで、腹八分目、食べ過ぎないようにしましょう。食物の中で、野菜や果物はがんの予防に役立つので、毎日、小さな握りこぶし5つ分の量を取るよう心掛けてください。軽い運動も大切で、早足で一日合計約30分程度歩くように心がけてください。身体や食事の

最善のがん治療を

本県の平成24年の各がん検診の受診率は10〜30%台です。がん検診は市町村から受診のお知らせがあります。また職場で検診のある

人はどのようながん検診が含まれているか確認しておきましょう。万が一、がんと診断されたら最善のがん治療を受ける努力を払ってください。標語的に言えば「落



県立静岡がんセンター 免疫治療研究部 部長

あきやま やすと
秋山 靖人 氏
1984年徳島大学医学部卒。89年から国立がんセンターのリサーチレジデント、99年から国立がんセンター研究所主任研究官としてがん免疫療法の臨床試験を実施。2002年から現職。進行がん患者に対する免疫療法を橋渡し研究を行う。

がんの新しい免疫療法

免疫療法による治療

免疫とは「疫を免れる」という字の通り、生来生物が持つ、病気や細菌等から自分を守る仕組みのことです。そして、がんには免疫療法という治療法があります。

まず免疫療法には養子免疫療法という、がんを攻撃するT細胞を増やして治療する方法があります。特に、メラノーマという皮膚のがんに有効です。また、B細胞が作り出す抗体による治療もあります。この抗体は体の細部にまで浸透して、がんの増殖や他臓器への転移を抑える効果があります。免疫療法には、がんのワクチンとして使える腫瘍の抗原が少なく効果が弱いという問題点

これらの課題を打ち破ったのが、免疫療法の新薬「ニボルマブ」を含む「免疫チェックポイント抗体」という新薬です。これは日本で作られた抗体医薬です。この新薬は、T細胞の機能を一層高め、がん細胞をさらに強く攻撃できます。しかも他の薬を併用せずに単剤で、がんの治療縮小効果が認められた初の免疫治療薬です。この新薬で、今まで効果が出せなかったがんや、治療法のない進行したがんにも効果があることが分かってきました。一方で肺炎や皮膚障害、下痢など全身的な副作用が出やすいことも知っています。

現在この抗体新薬を使って、多くの製薬会社が世界中で臨床試験を行っているほどです。がんの免疫療法は、これからも進歩し続けていくことでしょう。がんは、遺伝子の変異を持つ細胞が増殖する病気です。当センターでは2年前から「プロジェクトHOPPE(ホープ)」という、がん細胞の遺伝子の解析を行う臨床研究を行っています。この新薬に関するより高い治療効果や副作用について有用な情報を探るためにも、今後も一層力を入れていきます。

タワーンミーティング 質疑応答

会場では、当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

Q 今、話題になっている免疫療法の一つ、免疫チェックポイント阻害剤は、投与していただけますか？
秋山 この薬剤は、現在、手術が不可能な皮膚がんの一種である悪性黒色腫や一部の肺がんが保険診療の対象になっています。臨床試験が進み、治療効果が確定したら、使用できる範囲が広がっていくはずです。

Q かかりつけ医は、どう見つけたいですか？
山口 身近な診療所で、相談しやすい医師が通っていると良いです。専門領域にはこだわらなくて良いです。かかりつけ医は、病状に応じて適切な専門医を紹介してくれますので、ぜひ持つようしましょう。

Q がんは、遺伝子の変異を持つ細胞が増殖する病気です。当センターでは2年前から「プロジェクトHOPPE(ホープ)」という、がん細胞の遺伝子の解析を行う臨床研究を行っています。この新薬に関するより高い治療効果や副作用について有用な情報を探るためにも、今後も一層力を入れていきます。